

特集 メディア情報学部プロジェクト報告 「学びとしての科学コミュニケーション」

特集にあたって

小池 星多

東京都市大学横浜キャンパスでは、環境学部、メディア情報学部の2学部を擁し、文系、理系の教員が教育・研究を行うことで、文系、理系の両方の素養を持った学生を育てている。私たちは、横浜キャンパスのこの特性を生かした人材育成を行いたいと考えていたが、これが「科学コミュニケーション・プロジェクト」として実現した。科学コミュニケーション・プロジェクトは、本学が推進している創立90周年（2019年）と、創立100周年（2029年）という中長期的な視点から将来ビジョン達成のための各プロジェクトにおける中長期計画（ロードマップ、施策・事業）案である「2030年アクションプラン」に採択されたことで2015年度から2017年度の3年間実施された。現在の社会では、科学はその恩恵を受けつつも、時には危険なものになる中で、一般市民は正しい科学的知識を知る機会が少ない。一方で科学者は、市民の科学に対する要望や認識を直接知る機会も少ない。この問題を解決するには、専門家の科学者が科学的知識に乏しい市民に正しい科学的知識を教授するということではなく、両者が対等に対話をしていくことが必要である。このような対話が科学コミュニケーションであり、対話の場をデザインし、両者の間を取り持つような人材を育てるのが科学コミュニケーション・プロジェクトの目標である。

この3年間の科学コミュニケーション・プロジェクトにおいて、サイエンスカフェの実施、博物館の見学会、外部講師を招いたシンポジウム、勉強会などを行なった。このプロジェクトの最大の成果は、学生自身が様々な活動に参加し、サイエンスカフェなどの企画立案、実施にかかわることを通して科学コミュニケーションを学んだことであろう。本特集号は、科学コミュニケーション・プロジェクトに関わった教員、学生による理論的観点、プロジェクトの記録、総括である。プロジェクトを進めるにあたり、多くの困難や苦労があったが、関係者の努力で有意義なプロジェクトにすることができた。最後に科学コミュニケーション・プロジェクトに関われた方達に感謝いたします。

KOIKE Seita

東京都市大学メディア情報学部社会メディア学科教授